

第3回 福山駅前再生協議会

開催日時 : 2017年(平成29年)7月24日(月) 15時30分～17時30分

開催場所 : 福山市役所3階大会議室

出席者 : 委員・アドバイザー : 15人

一般傍聴者 : 44人

意見交換

○清水義次座長

- ・今回、委員のみなさまには、どのようなコンテンツを入れたら福山駅前が活性化するのかということを考えてもらいたい。
- ・事務局の資料にある、再生に向けた方針や想定するまちの使い手、目指すエリア像についても議論していきたい。
- ・委員の方の中で提案の準備をしてくださっている方がいるので、名簿順にお願いしたい。

○生駒芳子委員

- ・人で賑わう場所の条件として、市民の居場所となる必要があると思う。もう一つは自分自身を磨ける場所であること、3つ目は福山の価値を上げる場所となることだと思う。
- ・今東京で盛り上がっている場所で日本橋がある。アートアクアリウムという金魚を展示している場所がある。浴衣を着た若い人が多くて、ここは季節感、日本の情緒を感じることができるのいいと思う。
- ・中目黒のツタヤも人で込み合っている。本を買わない人でも何時間も居られる。まさに居場所になっている。
- ・私は、駅前がマテリアル・ミュージアムになればと思っている。福山の素材や特産品の集まる場で、学びの場であり、ビジネスの場であり、市民の憩いの場でもある。福山はファッションのまちであるし、文化の発信ができるまちだと思う。その拠点のような場になればと思う。
- ・具体的な取組としては、「福山マテリアル・コレクション」という、福山の素材や技術を紹介する展示スペースをつくる。コンシェルジュが常駐し、求めている素材や技術の相談ができたり、商談もできる。
- ・もう一つは、福山の企業が市民を対象に素材や技術のワークショップを気軽に行えるようなワークショップスペースを設ける。
- ・アーティストレジデンスの取組も必要だと思う。国内外のアーティストやデザイナーを受け入れて、福山の素材や技術を用いて制作活動を行ってもらう。ギャラリースペースを併設して完成品を展示したり、市民とのワークショップ、トークショーなどの交流機会も設け、市民の文化度を上げることにつながると思う。
- ・セレクトショップとカフェが併設した「福山マテリアル・カフェ」をつくることも大切だと思う。福山ゆかりの作家の食器や、デニムの家具など福山メイドのものに触れることができるカフェである。セレクトショップではカフェで体験した特産品やグッズを購入できる。

- ・福山おばあちゃんおじいちゃん大学をつくり、昔話を語り継ぐセミナーを地元の高齢者が開催する。高齢者の方々の知恵を聞ける場所になればと思う。

○嶋田洋平さん（アドバイザー）

- ・今の提案は一つのビルの中にあるイメージか、それとも散在しているイメージか。

○生駒芳子委員

- ・大きな建物を建てるというイメージではない。アメーバのようにいろんな場所からふつふつとできてきて、エリア全体がミュージアムになればと思う。

○嶋田洋平さん（アドバイザー）

- ・マテリアル・コレクションとカフェは事業として成立しそう。アーティストレジデンスも相当尖ればうまくいきそう。ゲストハウスと一緒に組み合わせたりできるのではと思った。
- ・マテリアル・コレクションは、企業が出資して、利益が出る形をつくることができばうまくいくのではないか。
- ・収益事業とそうでない事業、例えばおばあちゃんおじいちゃん大学をうまく併設させればいいのではないかと思った。
- ・5つのコンテンツを提案していただいているが、生駒さんがご自身でするならどの事業をするか。

○生駒芳子委員

- ・マテリアル・コレクションとカフェを併設したいと思う。

○前田圭介委員

- ・提案はいいと思うが、具体的に福山駅前のどのような場所で行っていくのか、リアリティが感じられないので、エリアも含めて考えてもらえるといいと思う。

○生駒芳子委員

- ・マテリアル・コレクションだと、今稼動していないビル、おばあちゃんおじいちゃん大学なら空き家を使ってもいいと思う。

○清水義次座長

- ・この場で全てのアイデアを決めていくのは無理がある。
- ・5つの事業のうちの優先順位や、想定でいいので必要な床面積などを出してもらって、それをみんなで議論していけば実現するアイデアになっていくのではないか。
- ・こういったアイデアとビジネスオーナーをつなぐ家守という存在がほしい。

○奥山健二委員

- ・今まで何度も言ってきたが、福山にばらのネックレスをつくりたい。福山駅前をその拠点にしたい。
- ・今の駅前の空間はもったいないと思う。駅前から2号線あたりまでばらを植えていく。

- ・駅前のロータリーを2階建にして（デッキをつくって）天空のばら園をつくるのはどうか。福山城公園にもばらを植えて、伏見町と空中通路でつなげて回遊性を持たせる。

○前田圭介委員

- ・今の伏見町は低層の建物が集まっていることがいいと思う。大きな建物は必要ないのではないか。
- ・戦後から今に残る建物、昔ながらの雰囲気やアイデンティティを残すべきではないか。

○嶋田洋平さん（アドバイザー）

- ・コンテンツとして見ると、とてもいいと思う。
- ・住居もあるし、働く場所もある。さらに福山駅の南北をつなげて、そこに緑が広がっているというのはコンテンツとしてすごくいい。
- ・ただ、線路が高架になっているから、ばら園まで天空にある必要はないかもしれない。
- ・地べたを人間が歩いて、駅の南北がつながり、そこに緑が広がっていれば全部のコンテンツはみんなが目指す方向と合っているのではないか。

○久田数枝委員

- ・そもそも福山はどういうところなのか、私の知り合いにアンケートを取った。たった11人の女性であるが、このうち9人は経営者や事業者である。
- ・まず、駅前に何があったらいいかという質問には、学習施設や情報交換できる場、書店がほしいという声があった。また、駅の構内が少しせまいので、イベントなどができるようなスペースができればという話もあった。
- ・福山のシンボルは何かという質問には、福山城という声が多かった。駅の新幹線の構内から福山城まで直通の道をつくったら、多くの人に親しんでもらえる。
- ・市外から来た人には福山城はかなり印象に残っているみたいだ。駅の南側にばかり目がいきがちになるが、駅の北側のほうが開発を進めやすいのではないか。
- ・城下町風の街並みを整備してもいいし、そこに若い人が集まってきて起業したり、店舗やオフィスを女性や若者たちに優先して貸したらどうか。ビジネスコンペをして事業アイデアを広く募ってはどうか。
- ・エリア像については、福山は素材が有名で、歴史が深い。草戸千軒町跡からは宋銭も見つかっており、このまちが中国と貿易をしていたのではないかと思うとロマンも感じる。
- ・華やかな町というより、堅実に努力をしてきた町ではないかと思う。
- ・私自身が駅前で何をするかとなると、自社は教育サービス業で、子どもや若者を対象にしたプログラムを多く提供しており、生涯学習施設と留学エージェントができると思う。「人を活かす町」として、福山を教育で活性化したい。
- ・不登校の子どもたち、地元の学校環境が合わない子どもたちは、駅前に学校ができれば来るのではないか。
- ・先ほどの説明会で岡崎さんが普遍的集客施設を開発の中心に設置するということをおっしゃっていた。普遍的集客施設は学校、教育施設ではないかと思う。

○渡邊一成委員

- ・アンケート結果の中に福山は暮らしやすいとあるが、具体的にどういうところが暮らしやすいのか。

○久田数枝委員

- ・のぞみが停まり、交通の利便性がよいし、ある程度のものは手に入れることができる。遊び心はないが、駅前には車でも来やすいし、そのままでもいいのではという声もある。

○渡邊一成委員

- ・自分ならどんな事業に取り組むかの前に5つのエリア像について提案したい。
 - (1) 「人が集まる場」と「人を集める場」の融合
 - ・人が集まる場は機能重視で役所など必要に迫られて行く場所である。
 - ・人を集める場は、魅力を感じて行く場所である。商業施設などはこれにあたる。
 - ・人を集める場として、何をつくっていくか、魅力的な商業施設の立地による集客とは異なる魅力づくりが必要だと思う。
 - ・福山駅の乗車人員は京阪神圏以外だとかなり善戦していると思う。また、福山駅は乗車人員あたりの運輸取扱収入（切符の売上など）が高く、新幹線の利用客の割合が高いのではないと思う。出張などビジネス利用が多いと思うので、この人たちをターゲットにした事業もいいのではないか。
 - (2) 空間・施設の多機能化
 - ・大都市であれば国際会議などのコンベンションの開催も多いが、福山などの地方都市では少なくなる。コンベンション専用の施設ではなく、コンベンションもできる施設として、利用機会を増やしていくことが大切だと思う。
 - (3) 構想段階からの賑わいづくり
 - ・賑わいのない場所で一気に賑わいをつくることは無理だと思う。構想段階から賑わいをつくるのが大切だと思う。
 - ・駅前周辺はこれからまちづくりとまち育てが必要になる。まちをつくりながら賑わいを出していくことが大切だと思う。
 - (4) 福山城を活かす
 - ・新幹線のぞみ停車駅のなかで、福山駅は圧倒的に城と近いため、これを活かしたまちづくりが必要だと思う。
 - (5) 脱クルマエリア
 - ・過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車を使う方向へと自発的に転換することを促すモビリティマネジメントという取組がある。福山市でもベスト運動として取り組んでいる。
- ・自分なら何をするかということだが、学生や教員は駅前をフィールドにしながら学ぶことができると思う。駅前のまちづくりをテーマに授業やゼミで取り組んだり、学生の主体的なまちづくり活動を通して、まちづくりやまち育てに取り組むことができる。
- ・まちづくり、まち育ても駅前の大切なコンテンツになると思う。
- ・活動が外から見えるオープンな空間をみんなで使うことはできないか。
- ・例えば、朝は老人大学として、午後は学生の集まる場として、夜は会社員の勉強スペースとして使う。

使い方や使う人を限定するのではなく、365日、24時間みんなで使い続けるようにしてどうか。

○石川貴志委員

- ・地方に出張に行くことが多いが、泊まってそれで終わるのはさみしい。地元のおもしろい人とつながることができるできていない。
- ・まち全体をホテルと見立てるとおもしろいかもしれない。宿泊施設としてエリアのオープンスペースをシェアしていくことができないかと思う。
- ・脱クルマエリアという話があったが、福山に帰ってくると思うのがバスの便がよくない。シェアリングエコノミーを考えてみるのはどうか。ただし、信頼が前提になるので最初は壁があるかもしれない。

○清水義次座長

- ・学生を巻き込んでいくのはいいと思う。すぐにでも取り組んでもらいたい。
- ・駅のことがよくわかりました。城からこんなに近い場所に駅があるなんてなかなかない。これを逆手にとってうまくやれないか。「城の中に駅がある」という捉え方をしたほうがいいのではないか。駅と城の関係を活かせるまちになればいいと思う。

○株式会社広島銀行

- ・コンテンツの話の中で、福山駅にとって福山城を活かすのは大切なことだと思う。福山城と駅前を一体としてみるが必要になる。
- ・今のバス乗り場は空間をうまく使えていない。天空のばら園という話があったが、私はばら園は地上につくり、2階をバス乗り場にしてはどうかと思う。
- ・歴史と文化を守り、まちを整備するには資金措置が必要となってくる。広島の旧市民球場やマツダスタジアムも樽募金や寄付金が入っている。
- ・おらがまち福山という精神で、市民参加型のクラウドファンディングを取り入れてみてはどうか。あるいは企業からの寄付金も必要になってくるのではないかと思う。
- ・既存の建物を活かして、リノベーションをしていく方がコストを抑えられていいのではないかと思う。その後に奥山委員が提案されたものにつながるのではないかと思う。やはり銀行の立場としては経済合理性を考えてしまう。
- ・歴史と文化、市民の憩いの場所、賑わいが融合した空間づくり、この3つの柱で考えていく必要がある。
- ・また、前回少し話したが、高齢者の事故が増えている。高齢化が進むなかで高齢者の方が魅力を感じて集まれる場所をつくることも大切ではないか。
- ・例えば、免許返納した方などには公共交通の無料券を配って駅前に来てもらうなども方法の一つだと思う。
- ・駅前に全科のクリニックがあり、買い物あり、憩いありのコンパクトなまちができればと思う。

○ディスカバーリンクせとうち

- ・私たちは、一貫して駅前に公園をつくったらどうかと提案している。
- ・商業施設による賑わいは本当に必要なのかと思う。どこにでもあるものに思える。
- ・福山駅の南北を一体に捉えて公園をつくる。福山城から宮通りあたりまでを考えているが、これくら

い思い切ったことをする，振り切ったことをすることがいいのではないかと思います。

- ・駅前に緑があって，市民が散歩やジョギングをしているイメージを持っている。
- ・バスターミナルや自家用車は地下へもって行ってはどうか。
- ・公園内には限定的なカフェやショップ，個性的な店があればいいと思う。
- ・既存の商店街に新しく店ができるのは，飲食店が多い。空いている場所をサテライトオフィスとして市役所が使うのもおもしろいと思う。

○渡邊一成委員

- ・公園の夜の利用はどう考えているか。

○ディスカバーリンクせとうち

- ・治安の問題は確かにある。

○嶋田洋平さん（アドバイザー）

- ・東京の池袋に南池袋公園というところがある。セントラルパークのような場所で，公園内にカフェもあり，人で賑わっている。
- ・そこでは夜に芝生の上にランタンと敷物を置いて，若い人たちが集まる素敵な場所になっている。

○清水義次座長

- ・具体的にはどのくらいの幅で，どのくらいの規模なのか。

○ディスカバーリンクせとうち

- ・南北は福山城から宮通りあたりまで，東西はキャスパのあたりから天満屋あたりまでかと思う。

○岡崎正信さん（アドバイザー）

- ・緑は，最初はみんなその価値に気づいていないことがある。つくって使い始めると周辺の不動産価値が上がるケースがある。セントラルパーク周辺では，公園に面している不動産の税金が高い。公園，緑には賛成する。

○嶋田洋平さん（アドバイザー）

- ・先ほど，お城の中に駅がある，という話があったが，「城と一体となった公園の中に駅がある」という見方もおもしろいと思う。これは世界中みてもないのではないか。これを見に来る人がいると思う。

○前田圭介委員

- ・これまでの協議会の議論ではソフトの話が多いが，基盤の話も必要だと思う。協議会で基盤の話をどこまで議論することができるか，考えていく必要がある。

○渡邊一成委員

- ・駅前にはバス，タクシーに乗る場所だけがあればいいと思う。待機している必要はない。広島駅でも

京都駅でも千葉駅でもショットガン方式による退避場の隔離に取り組まれている。なぜ福山でできないのかと思う。待機する場所がなくなるとかなりスペースは生まれる。

○福山商工会議所

- ・提案というか、今やっている内容を報告させてもらいたい。ビジョンの策定を待っていたら3月末なので、何か動きがないといけないということで社会実験を行う組織をつくった。
- ・民が主体となって、行政が支援するという形がいいと思う。
- ・どうすればこのエリアに価値が生まれるのか、最終的な目的としてエリアマネジメントということも考えている。
- ・郊外に行けばある程度のものが揃うが、駅前に非日常の空間があれば人が集まってくるのではないかな。毎週土曜日に夜店をしているが、一時期の衰退に比べて最近は徐々に賑わってきている。これも非日常の一つかと思う。

○渡邊一成委員

- ・資料を見ると、終了時間が午後5時、午後8時となっている。このあとの時間、アフター5、アフター8をどうやって周辺のエリアで吸収するかが大切だと思う。

○福山商工会議所

- ・中心市街地への誘導、周知は図っていききたい。

○渡邊一成委員

- ・もしかすると社会実験の時期とプロ野球の日本シリーズの時期が重なるのではないかな。何か関連付けることもできるのではないかな。

○福山商工会議所

- ・あくまで社会実験なので、他のイベントと重なると集客効果を測定できないのではないかなと思っている。あえてイベントのなさそうな日を選んでいく。

○石川貴志委員

- ・夜のまちをどうするかということだと思う。
- ・交流人口を増やすことも大切だと思う。家族で出張できるような仕組みがあればいいと思う。例えば出張で仕事をしている間に家族はアクティビティを楽しめる施設があれば家族で出張に行ける。

○前田圭介委員

- ・賑わいという即効性のあるものも必要だが、基盤をしっかりと考えていきたい。北大路魯山人の「器は料理の着物」という一節にもあるように、器だけよくてもだめ、料理だけよくてもだめで、バランスが大事だと思う。
- ・城と駅が近いことを活かしていけたらいいと思う。城の周りの景観としたら、マンションや結婚式場がある。景観条例のような取組も必要ではないかなと思う。

- ・伏見町というアイデンティティを残すことにも注視すべきだと思う。
- ・駅前には平櫛田中の釣り人像，南口バス乗り場にある野田正明さんのステンレス像，北口を出てすぐの城壁前にある杭谷一東さんの石のモニュメントがひっそりと佇み，駅構内には新幹線ホームへ上がるエスカレーター前に，海野建夫さんなどの壁面アートが，後から施工された壁により埋もれてしまっている。このように多くの美術作品を活かしきれていない，市民に気づかれていない現状があるなかで，有名なアーティストを連れてきて何かをつくれれば賑わうのではないかと考えるのではなく，市民自身が，本当に何が必要か，今あるものをどのように活かしていくかを考えるべきである。よって今のアートをより市民に愛されるよう，設置を見直すべきである。
- ・葉が落ちる前に枝を切るため，幹が太り，奇形となっている。まちの文化度は緑の成熟度で決まると思う。
- ・仙台の青葉通りでは，森の中に建物が建たせてもらっているように感じる。歩いていても日陰ができていて気持ちがいい。福山もこういうまちにしたいと思う。
- ・ソフト事業はやったあとどうなったかが見えづらい。ある程度ハード事業もマッチングさせる必要があるのではないと思う。
- ・本通りのアーケード事業に関わった。アーケードの柱は30年前のものを補強し，当時の記憶を残しているし，足元には植栽を植えて，商店街組合の人たちで育てるということにした。植物が大きくなると看板などもうまく隠してくれるし，不動産価値も上がってくると思う。
- ・6年前は30店舗空いていたものが，今は10店舗ほどにまで減ってきている。ソフトの部分の賑わいと基盤づくりが本当に重要だと思った。
- ・昨年よりも緑が茂ってきて，緑豊かな場所になってきている。
- ・商店街の一画に土地を所有しており，そこへまちなか保育や食育食堂，ブックカフェといった機能が複合した建築物を計画しており，自身も商店街組合の一組員として通りをさらに盛りあげていきたいと思っている。
- ・先人が残してきたものをどう活かすかということも大切だと思う。福山には武田五一という建築家がいる，その人の設計した福山市公会堂は戦火を逃れたが，解体されてしまった。市役所や市民会館，図書館も解体してしまった。その建築や風景を見て，体験して育った人たちの記憶は簡単に解体できない。海外に目を向けると，オルセー美術館やテートモダンなどのように，用途こそ違えど姿を継承しながら人々を受け入れる建築があるので，そういった建築を参照しながら福山の建築を活かすべきである。
- ・福山出身の建築家藤井厚二の設計による住宅が，大半が倒壊した状態で鞆の浦に残っていた。それを修復するだけでなく，藤井厚二の設計を読み解きながら，庭とともに別荘へのコンバージョンを行った。現在は月に1度一般公開日を設けて，多くの人が見学に訪れている。
- ・地元にある見失われがちなものに価値を見出すことが大切である。
- ・長崎の出島は埋め立てられてしまったが，市が土地を50年かけて買い戻して少しずつ出島を復元しようとしている。それは市民にとって誇れるものとなり，次の世代に引き継ぎながら行うまちづくりに感銘を受けるとともに，福山でも駅前に埋まるお堀などの史跡を活かしたまちづくりを行うべきだと思う。
- ・中長期の時間軸で，福山市が基盤づくりを行っていき，そこへ我々のような専門家が精一杯関わっていききたい。

- ・協議会では基盤づくりということも一つ結論付けて、マスタープランを描きたい。

○岡崎正信さん（アドバイザー）

- ・誰がやるのかという主語がないとそれで終わってしまう。いいアイデアでも何も形にならない。すぐにできることはすぐにしたほうがいい。
- ・私や嶋田はすぐにやってしまう。アドバイザーをやらせてもらっている理由の一つだと思う。思い立ったらやってしまう感覚が生まれてくると福山のまちが一気に変わっていくと思う。
- ・事業をする環境と事業者のマッチングは地元の人と一緒にやらないと上手くいかない。

○嶋田洋平さん（アドバイザー）

- ・前田委員の言う基盤の整備はとても大事だと思う。
- ・ただし基盤を整備しても民間の投資が起きない環境が現状としてある。いかに活きる投資にしていくかが大切になってくる。
- ・稼げなくなっている駅前で、福山の人は何を仕事にしてどうやって飯を食っていくのかが大切なことだと思う。何でどう稼ぐのか、稼げるのはどんな事業なのかを協議会で話し合っている。
- ・ハードの基盤はどうあるべきなのかの前に、心地よい暮らしとはどういうものなのか、それを逆算して数字とセットで考えていくことが大切ではないか。

○清水義次座長

- ・議論は結果として他の誰か人の意見と触発されてまた考えてさらに良くなっていくと思う。
- ・これが福山駅前周辺エリアの再生に現実的に実を結んでいくことができれば申し分ない。
- ・議論はとても良かったけど何も生まれなかったではよくない。
- ・前田委員の基盤の話は本質的でとても大切である。
- ・これについては行政側がどう考えるかが非常に大切になる。現実的に行政は金がなくなっている。行政側が金を使って本当に基盤整備できるような状況まで持ち込むためには民が稼がないといけない。しっかりした民間がそのまちを支えている。行政だけが踏ん張って、いい基盤はできたけどいいまちが出来たという事例は1つもないと思う。
- ・前田委員の話の中でとても大切なのは、大事なものの価値が本当に分からないまま壊され続けたことだと思う。その大切な資源を市民がきちんと理解しないといけない。
- ・伏見町を見ると、歴史が堆積していて、まちなみが面白くすごくいいまちが残ったと思っている。あの中にコンテンツが入ればおもしろいまちになるのではと思っている。
- ・まちの歴史は滅多なことでは簡単に壊していいものではない。
- ・これからはよりレベルが高い投資が求められているという認識を持っている。それに市民がどう関わっていくかそれも大切である。
- ・新しい建物を作るときによくある大規模なものを提案して、出来上がったそこから去っていく人たちだけがその建物に関わっているということがあるが、このやり方はクラシックなものになっている。価値を生まないやり方になってしまった。
- ・福山駅前セントラルパーク提案があったが、あれは結構おもしろいと思う。あれに向かって現実的にはどんなことができるか。交通政策と含めて考えないと難しい。

- ・新幹線というすごく便利な交通機関がお城の中に出来た。車を置いて歩いて、お城からかつての城下町エリアを歩いて楽しめるまちになればいいと思う。駐車場を上手な配置にしながら考えていくと、とてもおもしろいんじゃないかと思う。
- ・コンテンツの提案は今日の段階でいくつか出てきている。従来型ではないコンテンツが今日たくさん出てきたのは大成果だと思う。
- ・福山にどんなコミュニティが出来たらいいとか、福山にこれからどんな産業が興っていったらより暮らしやすいまちになるのか、そういう子ども世代以降につながっていくためのコンテンツを集めていく必要がある。
- ・それにはどんなもので、福山駅前にどんなコンテンツが集まったらいいのか、今日はそのきっかけとなるコンテンツ案がかなりたくさん出てきたと思う。
- ・さらにこれに加えて、日常生活でこれがあったらおもしろいというコンテンツも必要になる。普段の暮らしに近い、日常生活での視点がすごく大事になる。
- ・ライフサイクルに近い朝昼晩のコンテンツが福山駅周辺に出てくればもっと面白くなると思う。
- ・そのために駅周辺に不動産を持つオーナーはおもしろい話が出てきたら、うちの不動産貸すよとぜひとも申し出てほしい。そうすることで福山駅前のまちづくりが一步步進んでいくのではないかな。

以上